

# John Mung English Oratorical Contest

## My letter to John Manjiro

平成29年8月26日(土)に高知県人権啓発センターにて「第3回ジョン万次郎英語弁論大会」が開催されました。

中学生11名、高校生7名の計18名の学生が参加しました。

第2回大会同様、参加者のレベルが高く、審査員の方々も選考に苦慮されていましたが、厳選な審査の結果、

中学生の部では、田岡花菜さん(土佐山学舎3年)、

高校生の部では、戸梶純さん(高知工業高校2年)が

特別賞を受賞しました。

二人はアメリカで開催された「第16回ジョン万次郎フェスティバル」(マサチューセッツ州 フェアヘブン市)に派遣されました。



### —— 第16回ジョン万次郎フェスティバルに参加して 高知市立義務教育学校土佐山学舎3年 田岡 花菜 ——



私は、第3回ジョン万次郎英語弁論大会で特別賞を受賞し、アメリカのフェアヘブン市で行われた第16回ジョン万次郎フェスティバルに招待されました。

10月、私は土佐ジョン万会事務局の方や土佐清水市の中学生、高校生の人たちと一緒に人生で初めてアメリカに行きました。アメリカは、私が想像していた以上に華やかで美しく、今まで触れたことのない世界でした。

ジョン万次郎のパーティーで発表した英語のスピーチでは、緊張もしましたが、私の気持ちを届けようと、思いを込めてジョン万次郎のスピーチをしました。最後には、大きな拍手をいただき本当に、嬉しく涙が出そうでした。このスピーチを通して自分の英語が国境を越えて多くの人に感動を与えることができたことは私の誇りとなりました。

滞中には、日本の折り紙や習字など、現地の高校生に日本の文化も紹介しました。

また、高知県から持ってきた鳴子のキーホルダーや土佐山のゆずを使った加工品をお土産として手渡しました。私たちにとってなじみのあるゆずは、アメリカには無いようで、とても興味をもってくれました。私は、土佐山のゆずが、遠くアメリカの地に渡り、知ってもらえたことがとてもうれしかったです。

私は、現在、中学3年生で、受験生です。不安も大きく、まだまだ自分の力に自信がもてません。

ですが、ジョン万次郎がそうであったように、常に自分らしさを大切にしながら、未来へ向けて歩んで行きたいと思っています。このアメリカ滞在は、ジョン万次郎と時を越えて再会したような気持ちにさせてくれました。こんな、素晴らしい時間と機会を与えてくれたことに心から感謝をしています。

### —— 偉大なアメリカと小さな私 高知県立高知工業高等学校2年 戸梶 純 ——



私は前日、いや、当日まで実感が沸かなかった。それだけの事を成し得たんだ、私ならやれると自分に言い聞かせ、僕はジョン万次郎のいた地へと向かうために飛び立った。

フェスティバルの途中、バスに乗り見たジョン万次郎の学校やそのほか所縁の建物も殆ど掴めない彼の一部に触れられた気がして興奮した。

問題はその日の夜に起こった。不安が残りつつも充実していたアメリカでの滞在。しかし、1番大きな不安が私に襲いかかり始めたのだ。私は現地のジョン万次郎を愛する人々に自らのスピーチを発表しなければいけなかった。確かに私は日本で皆を感動させられたかもしれない。それを証拠に私はアメリカにいる。しかし、そのスピーチに関しては訳が違った。

私に皆を感動させられるだろうか? 嘘まじりに、間違えずに言えるだろうか。私はこれまでの経歴を振り返った。そして直前、私はあることを思い出した。

出発する前にALTのピリー先生に言われた「自信を持って」ということと「握手」をしたことだった。

しかしながら、それで完全に不安がなくなることはなかった。しかし誰かに背中を押されているという心強さと頼もしさ、そして期待に応えようという思いがスピーチにも出たと思う。

終わりとともに拍手とスタンディングオベーションが私の目の前に広がった。スピーチの中で1番私の気に入っていたところは大変受けていた。この思い出は絶対に忘れないだろう。

こうして私は日本、そして高知へと戻ってきた。お別れ会のスピーチの中で私は「ジョン万次郎は魅力的だ。でも私は違う」そう述べた。ジョン万次郎所縁の地や初めてアメリカに触れ、少しでもジョン万次郎に近づけたらどうか。いずれにせよ私はこれからも多くの事に興味を持ち、私の中の情熱を保ちながらジョン万次郎の魂に近づこうとするだろう。